

拝啓 今年も早や 10 月末、仲秋の時候となりました。お元気でお過ごしのことと思います。いつもエンカウンターお読みいただきありがとうございます。

相沢良一先生の「黒潮の神学」の第 5 回をお送りします。今月号の途中から、第 4 講「使徒パウロ覚書」が始まります。「使徒パウロ覚書」は、「黒潮の神学」では、39 回、約 120 ページにわたる大切な個所です。相沢先生は、小西芳之助牧師と同じように、パウロを非常に尊敬しておられました。

11 月 18 日(月)、学士会館で、第 7 回新渡戸・南原賞授賞式が開かれ、事務局を務めました。今年の受賞者は、北海道大学名誉教授の三島徳三先生と南原研究会代表で成蹊学園専務理事の加藤節先生でした。70 人の方が出席されましたが、今回も良いスピーチを頂きよい会でした。毎年本誌読者の米倉安雄さんご夫妻に手伝いの中心になって助けて頂いており、感謝です。

日野原重明先生が、毎週土曜日の朝日新聞「be」に「99 歳の私の証 あるがままに行く」というエッセイを書かれています。10 月 23 日のエッセイによれば、今年の 10 月 4 日に 99 歳になられ、来年 100 歳だそうです。今回の文章の中に、「日々新しい出会いを経験し、刺激を受けることにより、生き生きとした営みが生まれるのです。その意味で、「邂逅」(かいこう)(巡り合い)という言葉にわたしは、私は非常に関心があります。」と書かれています。私も同じ思いで、私の出会った先生方をご紹介するという意味を込めて、この毎月の小冊子に「エンカウンター」(出会い)という名前を付けました。エンカウンターという言葉は、南原先生の文章の中にあった言葉から頂きました。

10 月 23 日、岡山で中学校の同窓会があり、行ってきました。わたしは岡山市立丸の内中学校の第 9 期卒業生で、1 学年 548 名(9 クラス、1 クラス 60 名ぐらい)もいました。今回約 80 名が出席し、懐かしい友人に久しぶりに会えて、同窓会は楽しいと思えました。岡山に行ったついでに、私の母の主治医だった長瀬正巳先生が、老人健康施設(ろうけん)のイフケアセンターに入院されていますのでお見舞いに行ってきました。ちょうど昼前で、ろうけんの昼の食事風景も参観出来ました。永瀬先生は 96 歳で、私の母と同じ大正 3 年生まれ、永瀬先生にお会いすると母の年を思い起こすことが出来ます。

11 月 3 日には、第 7 回南原シンポジウムが開かれます。どうぞご加祈下さい。

パソコンの「エンカウンター」(<http://encounter.agape.gr.jp/>)に、第 74 号から 85 号まで、ウィリアム・バークレー先生の「希望と信頼に生きるウィリアム・バークレーの一日一生」から引用した号を追加して掲載しました。

だんだん寒くなってまいりますどうぞお体ご自愛ください。 敬具

平成 22 年 10 月 26 日

山口周三

エンカウターの読者各位